慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	土方久美著 財政学の基礎概念
Sub Title	
Author	堀江, 帰一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1924
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.18, No.3 (1924. 3) ,p.464(160)- 466(162)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19240314-0160

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

の變調（ヴリエエション）と呼んでも差支ない程である。

此處で發見せられた未刊資料は約六卷を成すに足るものがある。

更に其次の手稿の一系は吾々をして Marx, Engels の個人生活を窺はしめる。それは Marx の持つてゐた博大なる學識と仕事に對する異常に系統的なる精神と能力とを吾々に示すものである。Engels は Marx の死に到るまで化學物理學及び自然諸科學の研究を事としてゐた。

更に後に至つて發見せられた Marx 及び Engels の書簡は、最後にマルクス文獻の寶を成すものである。今日までに發表せられた書簡は Marx, Engels の記憶に對する何等の尊敬なくして刊行せられて居る。此事は省略の甚だ多いことに依て之を證明することが出來るのである。Marx の書簡の百中九十五は既に吾々の手中に在る。Engels の場合には右の弊は更に甚しかつたのであるが、私は Bernstein 及び Kautsky から此等の中の多くのものも同じく手に入れることが出來た。此等の書簡は數週間内に發表せられるであらう。

註、Marxの一八四五年の所作㈠ Über Feuerbach ㈡ Der „heilige" Max 及び㈢ Der „Prophet" Kuhlmann は Die deutsche Ideologie, eine Kritik der neuesten deutschen Philosophie in ihren Repräsentanten Feuerbach, Bruno Bauer und Stirner, sowie des deutschen Sozialismus in seinen verschiedenen Propheten なる手稿の部分をなすもので、此中の㈡は Engels の Ludwig Feuerbach 1888の附錄として㈢及び㈢は Bernstein 編輯の Dokumente des Sozialismus, Stuttgart 1903 ff. Bde III-V, Bd. III S. 17 に發表せられてある。所謂「神聖なる」Max は Max Stirner である。

小泉　信三

土方久美著　**財政學の基礎概念**

菊版本文五五〇頁附錄數十頁定價三圓二十錢、
岩波書店發行

本書は財政學と經濟學との學說上相關聯する諸方面の問題を取つて、說明したるものたり。「財政學の基礎概念」の總てを網羅したものとしては、議論なきを得ざる可しと雖も、基礎概念の或るものに就て、說明を下したる新しき試みとするを得べし。蓋し著者が開卷第一頁に於て「常識的に財政と云へば直に租稅を想起するによつても」、云々と述べたる考へは基礎概念の範圍を殊更に狹隘ならしめたるに非ざるか。

第一章より第三章に至るまでは經濟學に關する研究であつて、特に財政學と關係する所なし。第四、五、六の三章に於て、財政の性質が種々の點から說明され、結局財政なるものを廣義に解釋し、「財政は社會に於ける個人の活動を調節して、社會の理想實現の爲めに、營まれる購買力の强制的移轉である」とし、購買力の形態を說明して、貨幣價値に換價する能はざる享樂の如きものを所得とするを不可なりとし、フヰシヤー、ヘイグ、セリグマンの如き米國學者の所說を紹介することに勉めたり。第九章以下は租稅論にして、又第十三章は租稅轉嫁論なり。而して前者に於ては例へば累進稅法の根據を說明するに就て、經濟學說の根據を示し、後者に於ては租稅轉嫁を決定する諸種の經濟的現象を捉へ來つて說明を下す等、著者の苦心の跡の認む可きものあり。最後の一章「金融市場と公債」は全編を通じて、見るを得る唯一の國家信用論にして財政の概念や、租稅論に對して聊か方面の異なりたる研究とす可し。而して著者は金融市場の構成と公債との間に存する關係より進んで、公債に就て强制的效果の現はるゝことを述べ、租稅と公債とに就て、或る對照を爲し、以つて研究を了するものゝ如く、此一章に於ては種々の重大問題の暗示されたるに拘はらず、是等に對する說明議論の省約されたることを惜まざるを得ず。然も是れ望蜀に類するものか、著者の全編を通じて現されたる努力と新しき試みに對して、筆者は敬意を捧げることに吝ならざる者

なり。（堀江歸一）

雜報

理財學會々報　二月六日午後二時半、舊演說館に於て理財學會例會を開く。三時間に亙りて次の如き奧井教授の講演あり。

一八六〇年思想轉期に於けるジョン・ラスキン　奧井復太郎氏

一八四三年「近世畫家論」出版後、建築藝術に轉じたるラスキンの中世建築の偉大を讃美せし「建築の七燈」に於ける社會主義的色彩「ヴェニスの石」の一章に於けるゴシック建築批評のウヰリアム・モリスに與へし感動、彼の力說せし勞働の幸福、或はカーライルとの交渉を說き、「タイムス」に寄稿せる彼の「租稅論」「選擧權論」等を紹介す。一八五三ょ年り彼は書齋を出でてエヅンバロオにマンチェスターに、或は勞働者大學に講演を試み、斯くして美術批評より社會批評に轉じ、「此の後至者にも」に於ける彼の經濟論は當時の經濟學者の論難の的となり、竟に一八四三年より一八六〇年に至る彼の名聲の全く覆されし事實を說き、而も依然として經濟論の著述も敢てし社會改良の態度を固持して改めざりしラスキンの風丰を髣髴せしむ。

閉會後、萬來舍に於て晩餐を共にし、漫談に時を久しうして散會す。出席者は奧井、金原、津田の諸教授並びに日比野、夏目、江越、和田、濱谷及び駒崎の諸幹事なりき。

前號（第十八卷第二號）目次（大正十三年二月號）

論說

◎グラッカス兄弟（上）　高橋誠一郎
◎平等思意の學理的根據　瀧本誠一
◎直接配給の原理と其限度（上）　向井鹿松

雜錄

◎支那工業の現狀に就て（一）　及川恒忠
◎「近世畫家論」第二卷より「建築の七燈」に至る迄（二、完）　奧井復太郎
◎リカァドオ派社會主義概論（上）　津田誠一
◎自由主義以前　榎本鑛治
◎マルクスの價値論に對するBeerの批評　三邊金藏

◎一冊定價金五拾錢　郵稅金貳錢
◎半ケ年分金貳圓九拾錢　郵稅共
◎一ケ年分金五圓四拾錢

◎編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛
◎營業に關する用件は發賣元宛
◎原稿締切期日は發行の前月十日限

大正十三年三月十日印刷納本
大正十三年三月十四日發行

三田學會雜誌　禁轉載

第十八卷第三號

編輯兼發行者　東京市芝區三田二丁目二番地慶應義塾內　江田範保
印刷者　東京市赤坂區新町五丁目四十二番地　金子鐵五郎
印刷所　東京市赤坂區新町五丁目四十二番地　金子活版所

毎月一回一日發行

發賣元　東京市芝區三田貳丁目壹番地　丸善株式會社三田出張所　電話高輪一九二六

◎尙ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す

發行所　東京芝三田慶應義塾內　理財學會